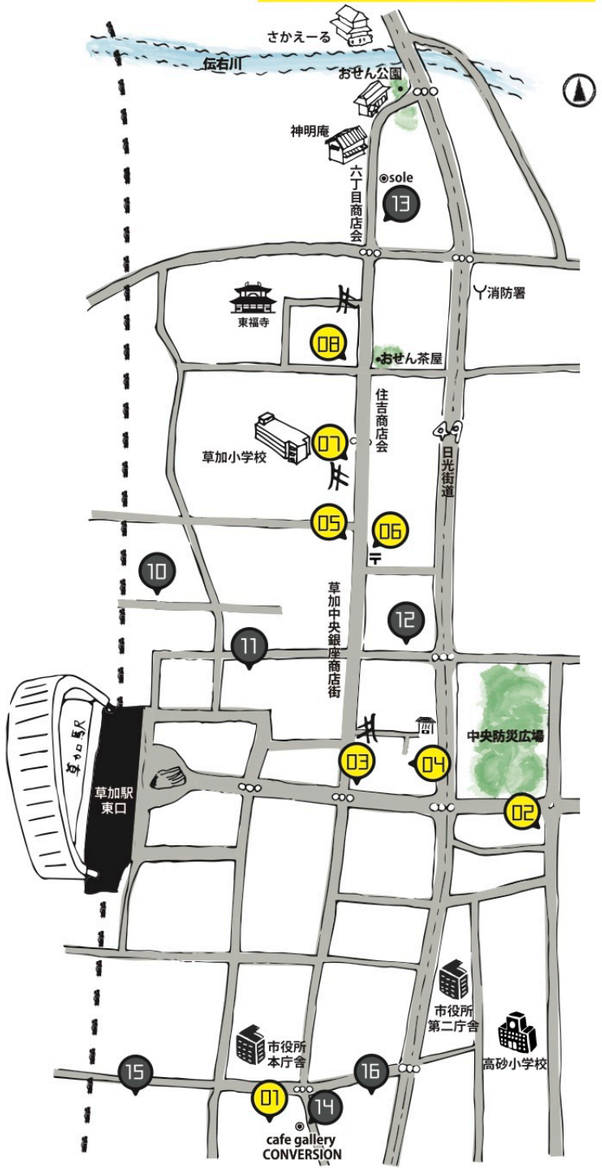
MAP

八幡町エリア

旧道沿道エリア周辺



＼変わり始めたまちを楽しもう！／

リノベーションまちづくりにより次々と新しいお店や新しい魅力が生まれています。変わり始めた草加市を歩いてみませんか？

リノーベーションまちづくりって何？

地域の賑わいを取り戻すため、空き家や空き店舗といった遊休不動産を利活用することで住人コミュニティの活性化や都市型産業の集積といった地域経営課題に対して、志を持つ市民自らが解決につながるコンテンツを生み出し解決に挑む。
まちの価値を高める民間主導のまちづくり手法。

リノベーションスクール＠そうか

第４回リノベーションスクールが、令和元年（2019年）11月29日からの３日間で開催されました。

リノベーションスクールとは、市内外から集まった受講生たちが「ユニット」と呼ばれるチームを組み、実際の空き家などを題材に、地域の課題を解決できるような新しいビジネスを興し、まちに変化を生み出すワークショップです。地域に必要となるコンテンツ、まちで暮らす人々が豊かになる仕事、まちに面白い人が集まる仕組みなどを３日間で検討し、実現を目指します。

今回は草加市では初めて、草加駅東口旧道沿道エリア全体を対象案件とした「公共空間利活用コース」を設置しました。

２つのユニットから出た事業提案は、それぞれの特徴を持ちながらも主軸には「旧道沿道を人中心の通りにしたい」という思いがありました。また、共通していた思いがもう一つ。
それは、未来の草加を生きる子どもたちへの思いでした。子どもたちに安心してのびのび遊んでほしい。学校では学べないことを地域の大人からたくさん学んでほしい。この街に愛着をもってほしい。
公共空間の使い方を変えることは、時間がかかることかもしれないが、何十年先の未来を想像したとき、今、私たちが動かなければ変えることはできない。
これから、草加のまちの暮らしをもっと豊かにするために旧道沿道を舞台に「人中心のまちづくり」を目指し動き始めます。
そして、まちづくりの主役は市民の皆さんです。理想のまちを市民の皆さん自身が考え、少しずつ実行していくことでまちが居心地の良い場所になっていくのだと思います。

これからも、そうかリノベーションまちづくりへのご協力をお願いいたします。

第４回リノベーションスクールの概要・各ユニットのプレゼン内容はこちらから。

令和２年３月発行　[お問合せ]草加市 自治文化部 産業振興課リノベーションまちづくり推進係　☎ 048-922-0839

01

パカン
PAKAN

もりてら あやの
森寺彩乃

1988年生まれ
草加市出身/在住

PAKAN

草加市中央 2-2-20-002
13:00〜19:00
水・木

店内の様子

大通りから一本入った半地下のお店。看板製作や店内の家具・雑貨やコーディネートは氷川町にある outlet CHEERS（チアーズ）が手がけている。設計はユニットメンバーの土田未優さんと株式会社岩淵家守舎の織戸龍也さん。施工は株式会社ハコリ。ゆったりとしたレイアウトで木目と落ち着いた色調の内装に選び抜かれた小物や植栽たち。店主、彩乃さんの優しい人柄が随所に現れている。

カウンターから店内を見る

未来へつなぐカフェ

やさしいおやつとコーヒーを提供する「パカン」は**あらゆる年代の人が居合わせて心地よく過ごせるカフェ**だ。
ただ、「パカン」にはカフェ機能だけではなく、もう一つの顔があり、夕方になると近所の小学生の勉強を大学生が教えている光景がみられる。
勉強を教えることがメインというより、親以外の大人、特に年代の近い大人と接することで、子どもが自分の好きなものに気づいてほしいという店主・森寺さんの想いから始まった。それは塾とは違い学力を伸ばすことが一番ではなく、勉強をする入り口になればという考えからだ。
価値観の合う一人のお母さんから口コミで広がり、今では何人かの利用者がいる。「勉強が大っ嫌いな子どもにこそ来て欲しい」と森寺さん。
勉強をする小学生と大学生がいて、その隣でカフェでお茶する人や、カウンターで仕事をする人がいる。
ひとつの空間で、それぞれのことをやっている光景が好きだと森寺さんは話す。そんな空間をお客様も心地よく感じているそうだ。
「**大人も子どもも関係なく、心地いい場所でありたい**。営業時間が19時までとカフェにしては遅いのは仕事帰りの人にほっとできる場所を提供するため。人の人生に寄り添い応援することが好きで、前向きになれるためにで何かできたら嬉しい。」

カフェを始めたきっかけは大学生の頃、留学や英会話カフェでのアルバイト経験を通して、年齢・国籍・職業関係なく同じ空間に人が集まる場に身を置くことで、得ようとして得られるものではない体験が自然とできたことから、自分もそういう空間を作りたいと考えるようになった。
空間、経営、人材育成、場作りを学ぶために学習塾へ就職し、7年間勤めた。その後、都内から地元の草加に戻り、高校の時から憧れの店、「cafe gallery conversion」の店主・今井慶子さんが取締役を務める家守会社「奏草舎」が運営する「sosocafe」で働いたことで、第3回リノベーションスクール@そうか（以下「リノスク」）への参加を決意し、今に至る。
リノスクの先輩で近所の「スバル」や「ecoma coffee」とはコミュニケーションをとり、力の抜き方を聞いたりモチベーションを貰っている。特に「sosocafe」の今井さんからは良い影響、刺激、店主の心構えを吸収させてもらい、森寺さんにとっては心の拠り所で師匠のような大きな存在。
「近くにいる先輩達がありがたい。草加でやっていこうと思えたのも先駆者である今井さんの存在が大きいです。」

自分の人生に影響する大人はそうはいない。きっと今の小学生や高校生が「パカン」で過ごした経験が心のよりどころになり、森寺さんにとっての今井さんの存在が、今度は今の小学生や高校生にとっての森寺さんの存在になり、**草加の未来へとつながっていく**のではないだろうか。

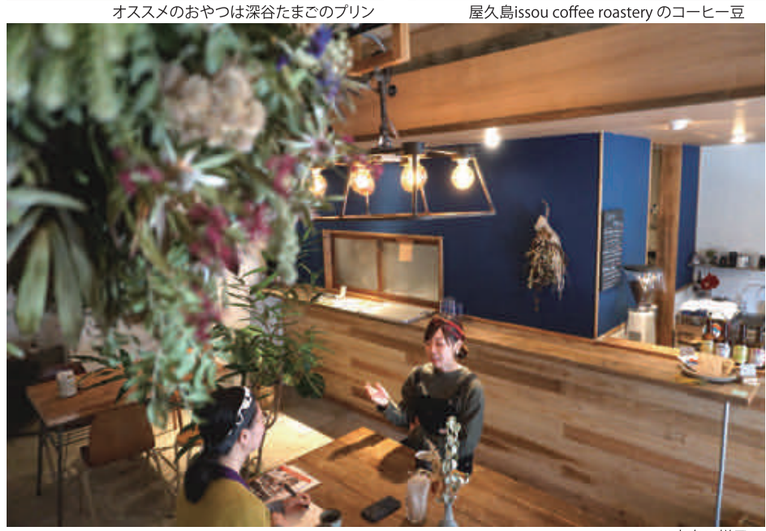
Before　閉店したとんかつ屋をリノベーション　Before：外観

After：外観

オススメのおやつは深谷たまごのプリン

屋久島issou coffee roastery のコーヒー豆

カウンター越しにコーヒーをフレンチプレスで淹れる森寺さん



店内の様子

02

オーグパン
おーぐぱん

おぐら たくま
小倉拓馬

1987年生まれ
草加市出身/在住

入口から店内を見る

店内の様子

もともと建物の外観が和風のため、それを生かし調和するような木の温もりを感じられる店内。

BAKERY おーぐぱん SINCE 2019

草加市神明 1-2-31
048-959-9202
9:00 - 18:00
休 月

パンを通じて生まれるつながり

おーぐぱんの店先には気軽に腰掛けられるベンチがあり、ここで地域の方が休憩をしたり、焼きたてのパンを食べたりできるスペースとなっている。「パンを作って売るだけではなく、買いに来た**お客さま同士で会話が生まれ、つながりが生まれるようなお店にしたい。**」と店主・小倉さんは話す。

高校生の頃に趣味でパン作りを始め、好きなことを仕事にしたいと進路を東京製菓学校に決める。その後、葛飾区のブーランジェリー・オーヴェルニュ等で8年間の修行期間を経て、独立を決意。地元、草加でパンの美味しさを身近に感じてほしいとの想いから、草加市の事業「創業塾」を受講。その時に第3回リノベーションスクール@そうか（以下「リノスク」）の当時、担当であった草加市産業振興課の安高昌輝氏と出会いリノスクを知る。小倉さんと安高さんは同い年で、彼のまちに対する想いや行動力に大きく影響を受け、リノスクへの参加も決意した。元々、まちの交流に興味があったが、自分も何か協力できることがあればしたいという気持ちになったのだ。実は別の場所で開店予定だったが、物件的にうまくいかなそうな部分があるため悩んでいたところ、リノスクを知った。タイミングで考えても、いい巡り合わせだった。

当初から和風の建物でお店をやりたかったので、リノスクで対象案件の外観を見た時は嬉しかったという。人通りや立地より建物に魅力を感じた。ひとりで開業するのと違い、ユニットメンバーの意見と塩梅をとりつつ進めていった。別業種のメンバーとの会話が増えて勉強になることが多く、パンを作って売るだけではない、自分では浮かばないアイデアがあったことで、今のおーぐぱんが生まれたのだ。

おーぐぱんのロゴデザインや、植栽の外構や店舗設計はリノスクで出会った仲間達によるものだ。
今でもリノスクメンバーとつながっており、第1回リノスクで誕生した同エリアの「sosocafe」からはsosocafeメイン商品であるコロネのパンのオーダーを受けている。

地元にも愛されつつ、遠目から人を呼べる魅力的な店になりたい。草加以外の人たちも集うようなお店にしていくのが目標。
パン作りに対するこだわりや熱い気持ちも強い小倉さん。「理想は**食べたパンで感動して欲しい。衝撃を与えたい。**」そこに辿りつけるように日々努力を惜しまない。特にハード系のパンに力を入れていきたいそうだ。
今後は店先のスペースを活用して、まちに繋がるイベントなどを行いたい。そして、少しでも地域の賑わいが生まれるよう、これから頑張っていきたいと考えている。

Before もともと事務所だった空き物件をリノベーション

After：外観＿気軽に腰掛けられるベンチがある

菓子パンからハード系のパンまで幅広く充実したラインナップ

店舗から広い厨房を覗くとパンを作る小倉さんの姿が見える

リノスク仲間のデザイナーが作成したロゴ

イチオシ商品のカレーパン

03

コワーキング スペース トリノス
Coworking space Torino's

かわばた　のぶふみ
川畑 喜史(左)
1975年生まれ
草加市出身/在住

つかもと　ただし
塚本 正(右)
1973年生まれ
草加市出身/在住

TORINO'S
Your Second Desk

草加市高砂 1-10-3-1
048-915-1366
会員　8：00 ～ 22：00
非会員 11：00 ～ 22：00
休 日曜・祝日
※貸切・イベント等での利用可

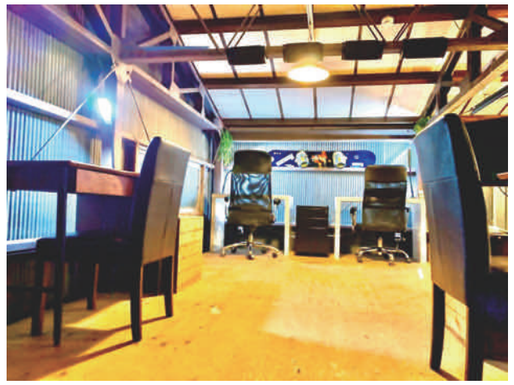
店内の様子

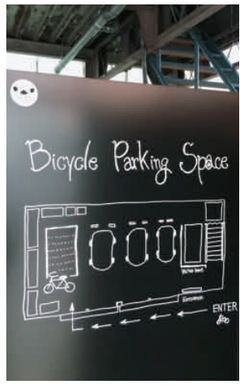
通常のコワーキングスペースと異なり、あえて元倉庫という雰囲気を出来る限り残した内装。打合せが出来るカフェのようなソファー席や壁に向かって集中できる席、モニターを独占できる席、自然光が明るい窓向きのデスクなど、その日の気分に合わせて席を選ぶだけでも楽しくなる。

入口から室内を見る

Before リノベーション前の倉庫

After：内観


ロフトスペース



1F駐輪場サイン(駐車場なし)

壁面ディスプレイ

個室の会議室 。壁掛けホワイトボードを使ってミーティングをすることも出来ます。

まちとつながる３つの機能

トリノスにはに3つの機能がある。
１つめは「**Your second desk**」。これは川畑さんが仕事をしながら資格の勉強をしていた時の経験が元になってる。
塚本さん：「自由で縛られない日常の中でも、好きな仕事をストレスなく集中してできる場所 ・ 環境が欲しいなとずっと思っていた自分にとって、トリノスは求めていた最高の仕事場です。」
仕事、家庭、勉強の両立が難しいことに加え、短時間でも集中できる環境がなかった事から、川畑さんは同じ悩みを抱える人に自宅と職場以外の『２つめの机』を提供したいという気持ちになった。これが1つめの「**Your second desk**」である。
仕事帰りに資格の勉強をする、残業を会社ではなく自宅近くで済ませる、など自分の時間を有効に使うための機能だ。
２つめは私営の公共空間「**公民館**」。
気の合う仲間と集まってミーティング、または何か自分の特技を活用してレッスンする場所として、イベントやセミナーを開催する等、地域の人が相談したり仲間に出会える場所になれたら良いなという想いがある。
そして、３つめは会って話せる「**相談室**」。
川畑さんが行政書士、ファイナンシャルプランナー、宅地建物取引士ということもあり、会社・不動産・お金・老後等、さまざまな相談をすることが出来る。一般的に専門家との相談の機会は、平日の日中に限られてしまうため、相談しようとするだけで仕事を調整しなければならない。
トリノスにくれば平日の夜や土日に相談を受けることが出来る。また草加市内で開業している弁護士・税理士・司法書士・社会保険労務士・FPなど専門家のネットワークがあるため、トリノスは窓口となり最適な専門家に繋ぐ役割を担っている。

「目まぐるしく変化していくこの世の中、情報感度の鋭い人たちが集い、繋がり、新しい情報を発信していくことで、その変化を楽しみや強みに変えていけるコワーキングスペースになっていってほしい。」と塚本さん。
「トリノスを知ってくれたすべての人が、知る前よりも少し前向きに少し幸せになってくれたらうれしい。」と川畑さん。
空き不動産の活用がきっかけだが、それが沿道の活性化につながり、誰かを勇気づけて背中を押したり、お話を聞くことで近くに住んでいる誰かの役に立てる場を目指している。